

# あたって ご挨拶



東通村長  
越善靖夫

新年明けましておめでとうございます。平成としては、最後の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年の我が村の第一次産業は、水稲が、春先から天候に恵まれ、順調に生育し、作況指数は103の「やや良」となりました。

畑作物では、大豆・ソバは、早期の品種により、良好な発育で、八月の台風・雨の影響も少なく、収量は平年並みとなりました。

漁業においては、村の主力であるイカ釣り漁が、過去最低の不漁となり、一昨年から続くこの低迷は、長期にわたって続くとの予想から、大変危惧しているところであります。

一方、サケ定置網漁は、数量で昨年を上回り、ここ数年では最も豊漁と伺っております。

ホタテ漁については、野牛・石持両漁協とも例年程度の水揚げと産地直送販売を実施できたと伺っております。

その他の主力魚種、ヒラメ、マグロ、ブリ、コンブ等については、昨年より不漁となり、平年の漁獲量を下回る状況にあり、特に、コンブにあつては平年の三割程度となっており、漁獲量の低迷は長期に続いております。

第一次産業が主体の東通村の中でも、水産業は経済活動の根幹をなす産業であることから、漁業の生産量の向上を目指し、併せて村の海域特性を生かした「つくり育てる漁業」のおお一層の推進を図る必要があると考えております。

水産資源の減少に加え、魚価の低迷、燃油や資材の高騰など、沿岸漁業を取り巻く環境は依然として厳しいものがありますが、魅力ある漁業、活力ある漁村と

なるよう、引き続き漁業振興対策事業を展開して参りますので、改めて、ご理解ご協力をお願いいたします。

ところで、東通原子力発電所東北電力一号機については、平成二十三年二月の定期検査以降、福島第一原子力発電所の事故に伴い、現在も停止したままであります。

東北電力においては、新規規制基準の適合性に係る審査への対応、安全対策工事などに更なる時間を要する見込みであることから、昨年五月に、工事完了の時期を2019年度から2021年度へ見直しし、地域の理解を得ながら、準備が整った段階での再稼働を目指すとしておりますが、具体的な見直しは示されておられません。

原子力規制委員会においては、厳格、公正な審査はもちろん、事業者との適切な対話を行い、審査のより一層の迅速化を望むものであり、事業者においても、審査への対応に、全力を挙げて取り組むとともに、規制当局に対して、毅然として対応すべきであると考えているところであります。

一方、東京電力一号機については、福島第一原子力発電所の事故以降、本格工事の開始を見合わせております。

東京電力においては、「東通原子力発電所の重要性は変わるものではない」とし、「新々・総合特別事業計画」において、「他事業者と協働で取り組む」、「2020年度頃を目途に協力の基本的な枠組みを整えていく」としていますが、具体的な見直しは示されておられません。

我が国のエネルギー政策については、昨年七月に、第五次エネルギー基本計画が決定され、2030年に向けた対応として、原子力発電を重要なベースロード電源に位置付けるとともに、原子力を20から22%とする電源構成比率を目指し、

必要な対策を着実に進めるとし、また、2050年に向けた対応として、原子力は実用段階にある脱炭素化の選択肢であるとしながらも、原子力発電所の新増設などの具体的な方策は示されておられません。

当村は、昭和四十年の村議会誘致決議以来、半世紀にわたって、村議会や村民のご理解をいただきながら、国や事業者との信頼関係のもと、一貫して国策である原子力政策に対して、全面的に協力してきております。

これまでも、再三にわたり、国及び県、そして両電力会社に対して、早期の再稼働と、早期の工事再開、立地地域への支援について要望活動を行っておりますが、東北電力一号機の運転停止、東京電力一号機の本格工事の中断が約八年もの長期に及び、当村の行財政はもちろん、地域経済への影響が年々深刻化を増し、非常に強い危機感を抱いていることから、改めて、要望活動を行い、立地地域がおかれている実情を強く訴えることとしております。今後も、より一層の安全確保を大前提として、原子力発電所との共生による村づくりを進めて参る所存でありますので、引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

このように、地元経済、行財政運営共に大変厳しい状況であります。将来を見据えた村づくりの取り組み、基幹産業である第一次産業の振興・発展のため、漁港・漁場・道路等の充実を図るとともに、教育、福祉、医療を重点的に推進してまいります。教育に関しては、東通村教育大綱に基づき、教育環境デザインを積極的に推進し、村の将来を担う子ども達を育んで参ります。福祉については、包括ケアシステムの充実に努め、村民の健康増進につなげて参ります。道路整備については、砂子又バイパスが完成を予定してお

り、白糠バイパスの老部工区の進捗を図って参ります。東日本大震災の教訓を踏まえた、原子力防災、津波に対する防災体制の整備促進も図っております。

また、「東通村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく人口対策では、子育て支援と教育環境の充実を柱に、首都圏からの移住を目指した相談会等の実施や、「ひとみの里」の分譲事業の推進、廃校舎の利活用による企業誘致や創業融資制度の充実等の雇用対策を行い、移住と住民の定住による人口対策を目指してまいります。

一方で、「下北ジオパーク」の「日本ジオパークネットワーク」への加盟と、尻屋崎灯台の「恋する灯台」の認定を契機とした観光行政の推進を図っており、新たに尻屋崎灯台の一般公開を行うなど、村への誘客を進め、村産品の消費拡大に結び付けていきます。

特に、「東通天然ヒラメ刺身重」は、一万食突破が目前と、大好評であり、野菜では、糖度を高めた寒締め野菜「寒立菜」を、新たな村の特産品として認知度を高めて参ります。

東通原子力発電所の運転再開と工事再開の時期が明確となつておらず、非常に厳しい経済環境、行財政状況は続きますが、私としては、この難局を乗り越え、行政課題を着実に解決しながら、将来の東通村の基盤をしっかりとしたものにて整備、将来にわたつて村民が東通村に誇りを持って頂くよう、皆様と共に行政を進めていかなければならないと思っておりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年に当たつてのご挨拶といたします。